



# 平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 サンリオ

コード番号 8136 URL <http://www.sanrio.co.jp/corporate/ir/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 辻 信太郎

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営企画室長 (氏名) 江森 進

TEL 03-3779-8058

四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日

配当支払開始予定日

平成27年11月19日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家及びアナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	35,458	△0.2	7,177	△15.3	7,262	△19.5	5,402	△10.6
27年3月期第2四半期	35,524	1.7	8,469	△13.2	9,021	△0.3	6,046	3.4

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 4,021百万円 (△22.0%) 27年3月期第2四半期 5,154百万円 (△48.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	62.46	—
27年3月期第2四半期	69.04	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第2四半期	110,661	59,949	53.9
27年3月期	122,124	66,269	54.0

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 59,638百万円 27年3月期 65,981百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
28年3月期	—	40.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	73,400	△1.6	14,000	△19.9	14,300	△22.8	10,000	△21.9	116.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期2Q	89,065,301 株	27年3月期	89,065,301 株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	4,218,039 株	27年3月期	1,911,534 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期2Q	86,494,729 株	27年3月期2Q	87,582,580 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
3. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社の第2四半期累計期間は欧米両地域での商品ライセンス収入の不芳が続き、好調な中国市場の増収ではカバーしきれず、売上高は354億円（前年同期比0.2%減）、営業利益は71億円（同15.3%減）となりました。

前年同期は円安により為替差益を4億円計上しましたが、当第2四半期累計期間は若干の為替差損を計上したため、経常利益は72億円（同19.5%減）に止まりました。税金等調整前四半期純利益は、株式市場の活況により投資有価証券売却益6億円を計上し78億円（同12.9%減）となり、高法人税率の欧米での利益が減少し、低法人税率のアジアで増加したことで法人税額の負担が減少したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は54億円（同10.6%減）と減少幅が抑えられました。

このような状況の中、国内は著増する中国人観光客を始めとするインバウンド売上に加え『ぐでたま』を始めとした新しいキャラクターの大人市場や海外市場での広がりによる第3四半期以降の収益への貢献を期待しております。

なお、すべての海外連結子会社の決算期は1月～12月であり、当第2四半期累計期間の対象期間は、2015年1月～6月であります。

〔報告セグメント〕

(単位：億円)

		売上高				セグメント利益（営業利益）			
		前第2 四半期	当第2 四半期	増減	増減率	前第2 四半期	当第2 四半期	増減	増減率
日本	物販その他	179	186	7	4.0%	50	47	△2	△5.2%
	ロイヤリティ	45	52	6	14.7%				
	計	224	238	13	6.2%				
欧州	物販その他	0	0	△0	△61.5%	12	7	△4	△36.6%
	ロイヤリティ	41	32	△9	△23.2%				
	計	42	32	△10	△24.1%				
北米	物販その他	6	7	0	12.7%	9	2	△7	△78.7%
	ロイヤリティ	35	22	△12	△35.6%				
	計	41	30	△11	△28.2%				
南米	物販その他	0	0	△0	△76.6%	3	1	△1	△47.0%
	ロイヤリティ	9	6	△2	△28.3%				
	計	9	6	△2	△28.7%				
アジア	物販その他	8	8	0	4.5%	12	16	3	30.5%
	ロイヤリティ	28	37	9	35.3%				
	計	36	46	10	28.1%				
調整額		—	—	—	—	△3	△4	△0	—
連結	物販その他	195	202	7	4.0%	84	71	△12	△15.3%
	ロイヤリティ	160	151	△8	△5.3%				
	計	355	354	△0	△0.2%				

(注) 海外地域の子会社は、ロイヤリティ収入に対して相応の額を売上原価として著作権所有者である日本の親会社に支払っており、それを親会社は売上高として計上しておりますが、連結消去されるため上表の日本の売上高にはその相当額は含まれておりません。営業利益には反映されております。

なお、ここに示す売上高は、外部顧客に対する売上高であり、前述のロイヤリティに限らずセグメント間売上高及びセグメント内売上高は消去しております。

## ① 日本：売上高238億円（前年同期比6.2%増）、営業利益47億円（同5.2%減）

増収減益の主な要因は、利益率の高い欧米子会社からのマスターライセンス収入が減少し、好調な直営店等の物販売上や国内ライセンス、アジアからのマスターライセンス収入及び、テーマパークの入場者数増による増益では補えなかったことによります。

国内ライセンス事業では、インスタントカメラの「チェキ」「日本製爪切り」等インバウンド関連商品や『リトルツインスターズ（キキ&ララ）』のアンダーウェア、洗顔料・パウダーなど化粧品関係の商品ライセンスが好調でした。また、『ぐでたま』に加えて4月よりアニメ放映を開始した『SHOW BY ROCK!!』が新規ライセンシーを獲得し、従来の主力キャラクター『ハローキティ』『マイメロディ』『ポムポムプリン』と併せ、商品ライセンスに加え、カフェ、コンビニエンスストア、企業販促品等のプロモーションライセンスが伸長しました。また、『ふなっしー』『ドラえもん』等人気他社キャラクターとのコラボレーション商品も順調に拡大しております。

国内物販事業は、増加する海外ツーリストにより都心部の店舗を中心に好調な販売となりました。「ウェットティッシュダイカットケース」が引き続き好調でした。キャラクターでは『ぐでたま』が幅広い年齢層に人気を博し、『ハローキティ』と『ドラえもん』『はらぺこあおむし』とのキャラクターコラボレーション商品や、「ローラアシュレイ」とのブランドコラボレーション商品が百貨店、直営店等の店頭で好評を得ております。更に、以前好評だった包装紙柄生地を使ったラッピングペーパープロモーションや今年40周年を迎える『マイメロディ』と『リトルツインスターズ』の「まんなかば〜すで〜キャンペーン」等の企画が好評で昨年度まで苦戦を強いられてきた地方・郊外店舗の販売も徐々に回復しております。その結果、既存店売上（直営店および百貨店の当社直営ショップベース）は、前年同期比108.3%となりました。

また、好調なインバウンドに対する取り組みは、インバウンドの来訪場所への売場確保と日本製商品の品揃えを増やすなどを進めております。出店政策としては、7月には京都に大型路面店の「サンリオギャラリー京都店」を出店いたしました。また、EC事業もサイトの開設やモール店と共同で催事を行うなどで前年同期比16.6%増と好調に推移しました。

テーマパーク事業は、大分県のハーモニーランドでは、入場者数は259千人と前年同期比で40千人増（同18.6%増）となりました。天候不順の影響はありましたが、パレードエリアの屋根を設置したことが功を奏しました。夏季は夜間のNEWパレードやプールが人気を博しました。経費では、屋根・パレード更新に伴う減価償却費等の増加やアルバイト需要の増加による人件費の増加はありましたが、集客増により営業利益は前年同期比増益となりました。下期に向けては、東九州道延伸地域の営業強化や屋根の設置とNEWパレードの周知を徹底し集客増による増収増益に努め、通期での黒字化を目指します。

東京多摩市のサンリオピューロランドは、今年1月から開催しているマイメロディ40周年記念イベント（パレード等）や仮装・ゾンビ・芸能人ファンミーティング等の各種イベントが人気で高校生、大学生、株主、企業、会員の来場者が増加し、入場者数が547千人と前年同期比114千人増（同26.5%増）と好調に推移いたしました。更に夏休みの広告宣伝媒体をテレビ等のメディアから「※ちゃんりおメーカー」に一本化し経費を削減したことにより、販管費を抑え営業損益は大幅に改善いたしました。この結果、テーマパーク事業全体では、入場者数は前年に対して155千人増加し、807千人（同23.9%増）となり売上高39億円（同20.1%増）営業利益は0.8億円と前年同期比4億円改善いたしました。

※「ちゃんりおメーカー」とはインターネット上で、顔のパーツや髪型、洋服を自由に組み合わせ、サンリオ風アバターを作れる無料サービスです。サービス公開から1カ月で延べ1,500万人が利用しています。自分の「ちゃんりお」をプリントしたクリアファイルの販売に加え、年内にはマグカップなどオリジナル商品を増やす予定です。

また、サンリオピューロランド内では、作成した「ちゃんりお」が参加できるイベントも開催しております。

## ② 欧州：売上高32億円（前年同期比24.1%減）、営業利益7億円（同36.6%減）

欧州は、主要な地域である西欧主要国での減収が大きく東欧・中東、その他の地域の増収で補えませんでした。また、商品カテゴリーで見ると、主力のアパレル、玩具、家庭用品が減少いたしました。ただし、食品、スポーツ用品、バッグは前年同期比増加いたしました。マーケティングの一環としてハローキティのミラノ万国博覧会日本館特別大使就任及びネットでキャラクターの商品・活躍を配信するな

どキャラクターブランドの維持・向上に努めております。下期に向けては、『ミスターメンリトルミス』を始めとして、『ハローキティ』に次ぐキャラクターの育成に努める一方で、拠点（ハンブルグ、ミラノ、ロンドン）の整備を進め、基盤の強化に努めます。

③ 北米：売上高30億円（前年同期比28.2%減）、営業利益2億円（同78.7%減）

米国では、大手量販店の映画関連のエンターテイメントキャラクターの影響による売場面積の減少が継続し商品ライセンスが減収となりました。加えてカフェ、ライブショーなど新たなマーケティングにかかる販管費の増加もあり、大幅な減益となりました。商品カテゴリーで見ると、主力のアパレル、玩具、アクセサリ、家庭用品が大きく減少いたしました。今後の対策としては、フランチャイズによる主要都市への旗艦店舗の出店等を通じ『ぐでたま』『マイメロディ』『リトルツインスターズ』の認知度を高めていき、マルチ・キャラクター戦略を推進して参ります。なお、8月にニューヨークタイムズスクエアに期間限定であります、ハローキティショップをライセンスショップとして出店し、年明け早々にユニバーサルスタジオ・オランダにライセンスショップを出店いたします。加えて『ぐでたま』は11月に米国のファッション専門店（音楽やポップカルチャー等をテーマにした小売チェーン）でライセンス商品デビューが決まっております。

④ 南米：売上高6億円（前年同期比28.7%減）、営業利益1億円（同47.0%減）

南米では、全域での経済低迷と他社との競合激化により減収減益でした。商品カテゴリーを見ると、ブラジルの靴、メキシコのバッグと両国のトップライセンスカテゴリーが不調でした。しかしながら、メキシコでは衛生用品、チリではティッシュなど新たなライセンシーを確保しております。今後の対策としては、商品ライセンスのカテゴリーを広げるとともに、ライセンシーと共同で一般消費者向けイベント開催でキャラクター認知を高め、企業販促としてのプロモーションライセンスの獲得による増収を目指します。

⑤ アジア：売上高46億円（前年同期比28.1%増）、営業利益16億円（同30.5%増）

アジア地域は、中国、台湾は増収増益、香港は減収増益、韓国は増収減益となりました。

香港では、中国本土メーカー製造輸出商品の一部売上を上海子会社に移管したことにより海外輸出が減少したことに加え、中国政府のビザ規制や円安により、中国人観光客を日本に奪われ、商品ライセンスが減収となりました。しかしながらファーストフードチェーンのノベルティへの採用やカフェ、イベント等の企業向けプロモーション売上が好調でした。その他の地域では、昨年に金融機関からの特注があったタイではヘルス&ビューティカテゴリーが好調でしたが、前期の特注分まではカバーしきれず減収となったものの、シンガポールやマレーシアでは郵便局向け販売プロモーションが好調で増収となりました。

台湾では前期同様、流通におけるプロモーションライセンスが好調で、『ぐでたま』が『ハローキティ』『マイメロディ』『リトルツインスターズ』とともに大手コンビニエンスストアのキャンペーンに採用されるなど増収増益でした。カテゴリーでは、家庭用品、ヘルス&ビューティ用品、文具が伸びました。

中国では、サンリオ商品ライセンスの代理店であるK T L社（香港のLi&Fungグループ）のサブライセンシー数が200社を超え、商品カテゴリーも増加し好調に推移いたしました。特にアパレル関係が著しく伸びました。その他のカテゴリーも純金アクセサリ関連のライセンスや、食品、家庭用品、靴、ギフト&ノベルティなど多分野にわたって伸長いたしました。さらにライセンスの新たな分野である、カフェやカラオケ店などの開拓が順調に進みました。

韓国では、量販店の店頭売上の低迷に加え、MERS（中東呼吸器症候群）の影響で中国を含めた海外観光客が激減し消費環境が悪化いたしました。商品カテゴリーでは、靴、家庭用品、文具が低迷しましたが、家電、玩具は増収を確保いたしました。ライセンシーとの関係を緊密にするなど営業力強化による販売チャネルの拡張を目指します。

参考：海外子会社 売上高・営業利益（現地通貨ベース：連結消去前個別財務諸表数値）

	売上高			営業利益
	ロイヤリティ	物販	計	
ドイツ 千EUR	21,301	268	21,570	5,317
(前年同期比増減%)	△22.7	△58.5	△23.5	△34.6
英国 千GBP	3,435	80	3,516	704
(前年同期比増減%)	56.2	46.8	56.0	41.0
北米 千USD	18,964	6,025	24,990	1,718
(前年同期比増減%)	△45.4	△2.6	△38.9	△81.9
Brazil 千BRL	16,526	25	16,552	4,122
(前年同期比増減%)	△21.6	△71.5	△21.8	△43.3
Chile 千Peso	—	41,287	41,287	33,023
(前年同期比増減%)	—	137.2	137.2	177.6
香港 千HKD	52,915	※ 64,547	117,462	27,714
(前年同期比増減%)	△11.1	△53.8	△41.1	△16.5
台湾 千NTD	223,972	25,030	249,003	77,319
(前年同期比増減%)	16.7	16.4	16.7	12.4
韓国 千KRW	4,455,720	1,245,714	5,701,434	1,640,728
(前年同期比増減%)	△15.0	118.6	△1.9	△25.3
上海 千CNY	71,771	※ 43,955	115,727	33,838
(前年同期比増減%)	36.9	1939.6	112.0	53.4

※ 2014年7月より、中国国内の商品供給を香港経由から上海経由に変更しております。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期末の総資産は1,106億円の前連結会計年度末比114億円減少しました。資産の部の主な増加項目は投資有価証券16億円です。主な減少項目は、現金及び預金105億円、受取手形及び売掛金の19億円、投資その他の資産のその他10億円です。

負債の部は507億円で51億円減少しました。主な減少項目は長短借入金25億円、未払法人税等10億円、退職給付に係る負債7億円、流動負債のその他9億円です。純資産の部は、599億円と前連結会計年度末比63億円減少しました。主な増加項目は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益により54億円の増加、及び配当金の支払による34億円の減少で差し引き20億円の増加です。主な減少項目は、公開買付けによる自己株式の取得69億円、その他有価証券評価差額金7億円、及び為替換算調整勘定8億円です。自己資本比率は53.9%で、前連結会計年度末比0.1ポイント減少しました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は国内物販事業においては、来日観光客（いわゆるインバウンド）の増加による消費効果や、新キャラクター、他社キャラクターとのコラボレーション、新しい商品企画の好評に加え、テーマパーク事業の入場者が2桁増と好調に推移しております。アジア市場でも経済環境の厳しい、香港、韓国を除き中国本土を中心に堅調に推移しております。しかしながら、欧米においては、エンターテインメント系グローバル企業による競争環境激化により、第1四半期に計画達成した欧州の第2四半期での不振や、米州の状況は、期初計画立案時より厳しい状況にあります。この状況を総合的に考慮した結果、当社業績は全体として弱含みに推移するものと思われまます。従いまして7月31日に発表の通期予想を以下の通り修正いたします。なお、当期の配当は、期初計画通り中間40円、期末40円を変更いたしません。

平成28年3月期通期連結予想数値の修正（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A） （平成27年7月31日発表）	75,400	17,000	17,100	11,500	134.14
今回修正予想（B）	73,400	14,000	14,300	10,000	116.64
増減額（B－A）	△2,000	△3,000	△2,800	△1,500	－
増減率（％）	△2.7	△17.6	△16.4	△13.0	－
ご参考：前期実績 （平成27年3月期通期）	74,562	17,468	18,525	12,804	146.53

## (参考) 海外地域別損益～第2四半期の3期推移

(単位：百万円)

地域		外部顧客に対する売上高					営業利益				
		H25/9	H26/9	増減率 (%)	H27/9	増減率 (%)	H25/9	H26/9	増減率 (%)	H27/9	増減率 (%)
北米	米国	4,938	4,181	△15.3	3,000	△28.2	1,666	973	△41.6	207	△78.7
南米	ブラジル・ チリ	817	942	15.2	672	△28.7	245	327	33.4	173	△47.0
アジア	香港	1,777	1,898	6.8	1,807	△4.8	336	439	30.7	507	15.4
	台湾	593	676	14.1	899	33.0	163	234	43.3	299	27.6
	韓国	496	567	14.3	616	8.7	204	215	5.4	180	△16.5
	中国	559	516	△7.7	1,362	163.6	230	367	59.6	655	78.1
	小計	3,427	3,659	6.8	4,685	28.1	935	1,257	34.5	1,641	30.5
欧州	ドイツ	4,141	3,957	△4.4	2,917	△26.3	1,304	1,143	△12.4	721	△36.9
	英国	246	334	35.6	339	1.4	44	104	135.6	69	△33.4
	小計	4,387	4,292	△2.2	3,256	△24.1	1,349	1,247	△7.5	791	△36.6
合計		13,571	13,074	△3.7	11,615	△11.2	4,196	3,807	△9.3	2,813	△26.1

(注) 平成26年9月期は、同年7月より製造管理業務の一部を香港法人から中国法人に移管したため、中国法人の第3四半期売上（日本法人の第2四半期仕入）を前倒しで連結消去したことにより、中国の平成26年9月期は平成25年9月期比で減収となっております。



2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	54,816	44,232
受取手形及び売掛金	11,567	9,646
商品及び製品	3,734	3,894
仕掛品	24	19
原材料及び貯蔵品	158	142
未収入金	1,947	1,852
その他	2,196	2,091
貸倒引当金	△133	△127
流動資産合計	74,311	61,751
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,137	6,922
土地	10,009	10,019
その他(純額)	1,745	1,954
有形固定資産合計	18,891	18,896
無形固定資産		
投資その他の資産	5,254	5,698
投資有価証券	11,153	12,819
繰延税金資産	3,018	3,102
その他	11,560	10,475
貸倒引当金	△2,162	△2,167
投資その他の資産合計	23,569	24,231
固定資産合計	47,714	48,825
繰延資産	97	83
資産合計	122,124	110,661
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,821	4,980
短期借入金	8,380	5,978
未払法人税等	2,715	1,708
賞与引当金	483	493
返品調整引当金	41	47
その他	12,931	11,975
流動負債合計	29,373	25,183
固定負債		
社債	5,694	5,720
長期借入金	8,567	8,424
役員退職慰労引当金	414	—
債務保証損失引当金	14	3
退職給付に係る負債	9,435	8,638
その他	2,355	2,741
固定負債合計	26,481	25,528
負債合計	55,855	50,711

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	3,423	3,423
利益剰余金	53,087	55,138
自己株式	△4,800	△11,789
株主資本合計	61,710	56,772
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,145	439
繰延ヘッジ損益	13	△8
為替換算調整勘定	5,643	4,780
退職給付に係る調整累計額	△2,531	△2,345
その他の包括利益累計額合計	4,270	2,866
新株予約権	165	165
非支配株主持分	121	144
純資産合計	66,269	59,949
負債純資産合計	122,124	110,661

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	35,524	35,458
売上原価	10,851	11,281
売上総利益	24,672	24,177
返品調整引当金繰入額	—	6
返品調整引当金戻入額	3	—
差引売上総利益	24,675	24,171
販売費及び一般管理費	16,206	16,993
営業利益	8,469	7,177
営業外収益		
受取利息	205	217
受取配当金	113	135
為替差益	408	—
その他	97	149
営業外収益合計	825	502
営業外費用		
支払利息	168	136
シンジケートローン手数料	4	105
その他	100	175
営業外費用合計	273	417
経常利益	9,021	7,262
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	325	632
特別利益合計	325	633
特別損失		
固定資産処分損	6	17
減損損失	304	2
特別損失合計	310	20
税金等調整前四半期純利益	9,036	7,875
法人税、住民税及び事業税	2,789	2,087
法人税等調整額	183	365
法人税等合計	2,973	2,453
四半期純利益	6,063	5,422
非支配株主に帰属する四半期純利益	16	19
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,046	5,402

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	6,063	5,422
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	273	△706
繰延ヘッジ損益	△7	△21
為替換算調整勘定	△1,334	△859
退職給付に係る調整額	159	185
その他の包括利益合計	△908	△1,400
四半期包括利益	5,154	4,021
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,139	3,998
非支配株主に係る四半期包括利益	14	23

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成27年6月11日開催の取締役会決議に基づき、公開買付けにより自己株式2,306,400株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が6,988百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が11,789百万円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	22,449	4,292	4,181	942	3,659	35,524	—	35,524
(うちロイヤリティ売上高)	(4,536)	(4,194)	(3,546)	(935)	(2,803)	(16,014)	(—)	(16,014)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	5,565	53	18	7	1,136	6,782	△6,782	—
(うちロイヤリティ売上高)	(5,288)	(51)	(18)	(7)	(26)	(5,391)	(△5,391)	(—)
計	28,015	4,345	4,199	950	4,795	42,307	△6,782	35,524
セグメント利益	5,055	1,247	973	327	1,257	8,863	△393	8,469

- (注) 1. セグメント利益の調整額 393百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本」セグメントにおいて、店舗資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、304百万円であります。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	23,843	3,256	3,000	672	4,685	35,458	—	35,458
(うちロイヤリティ売上高)	(5,204)	(3,219)	(2,284)	(670)	(3,791)	(15,170)	(—)	(15,170)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	4,721	29	11	7	1,192	5,962	△5,962	—
(うちロイヤリティ売上高)	(4,541)	(28)	(0)	(—)	(33)	(4,603)	(△4,603)	(—)
計	28,565	3,286	3,011	679	5,877	41,421	△5,962	35,458
セグメント利益	4,794	791	207	173	1,641	7,608	△430	7,177

- (注) 1. セグメント利益の調整額 430百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。